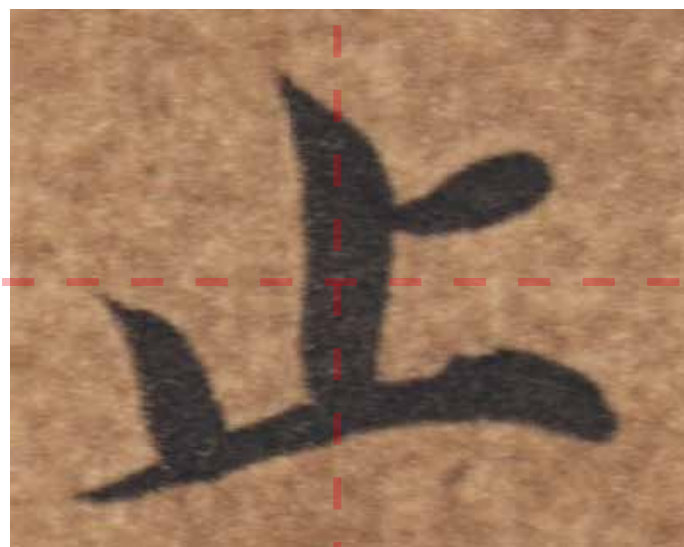




冬



支



ようし



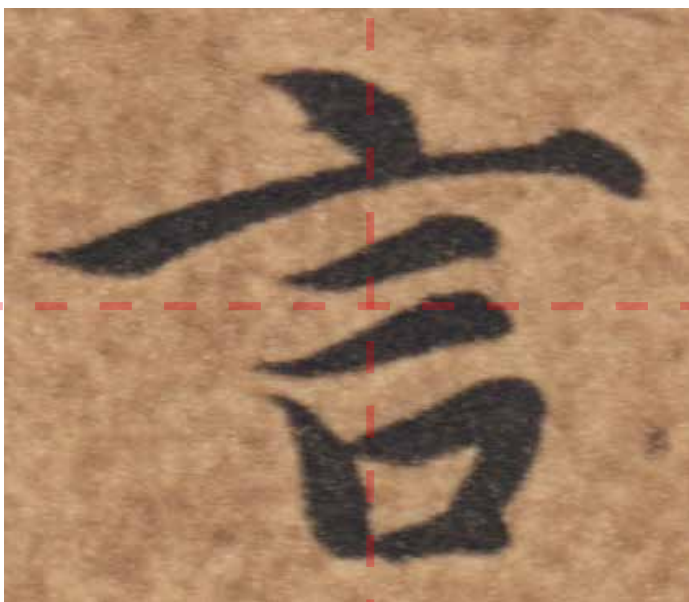
おも



ごと

く、

立ち振る舞いは厳かにし、



元



支



寒



げんじ



あんてい



にせよ。

言葉は落ち着いて穏やかに。

はじめに誠意しめすが美德、

初

はじ

めを

篤

あつ

くするは

誠

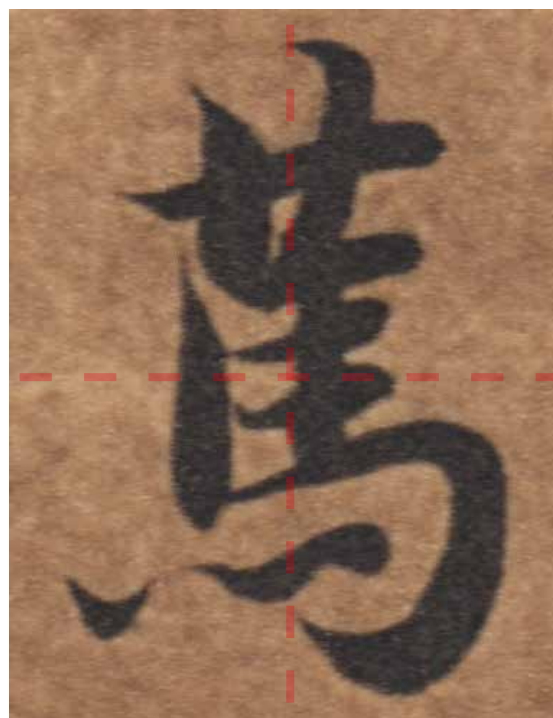
まこと

に

美

うるわ

し、



庚



魚



おわり

を



つつし

み



よろ

しく

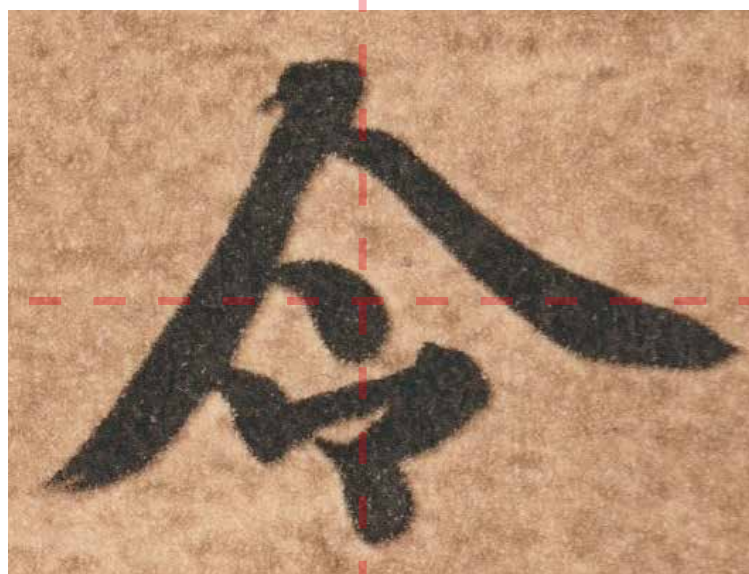


よ

くすべし。



支



東



庚



●



支

●



えいぎよう



の



もと

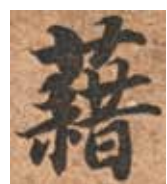
とする



ところ

、

身を正しくこれら教えの基づくところ、



せきじん



にして



お

わり



な

し。

虞

名声は高まり後の世まで伝えられるであろう。



がく



すぐ



とうし



し、

学に優れれば士官の道を得る、

蒸

尤



冬

庚



しよく



と



まつりごと



したが

う。

登朝したら国政の一端に連なれ。



元



覃

陽



そん



かんとう



もつ



てし、

「史記」燕召公世家によると、周の成王の時、召公が国を治め、巡行した時、棠樹の下で獄政を決裁したが失職する者がなかった。召公が亡くなった時、民はその政を思い棠樹を懐い、歌詠して甘棠の詩を作ったという。



去

さ

りて

益

ます

ます

詠

えい

ぜらる。

「史記」燕召公世家によると、周の成王の時、召公が国を治め、巡行した時、棠樹の下で獄政を決裁したが失職する者がなかった。召公が亡くなった時、民はその政を思い棠樹を懐い、歌詠して甘棠の詩を作ったという。